

直近2年間（2024年度・2025年度） における取組み ～若年ドナー拡大とコーディネート効率化～

2026年8月27日
公益財団法人 日本骨髄バンク

1. ドナー登録・採取実績の2カ年推移と課題
2. 普及啓発活動：スワブ登録の導入準備と若年層対策
3. 連絡調整事業：東西2拠点化とリモート面談
4. 環境整備：ドナー休暇・公欠制度の促進

ドナー登録者数の推移

100万人突破
2025年度 累計ドナー登録者

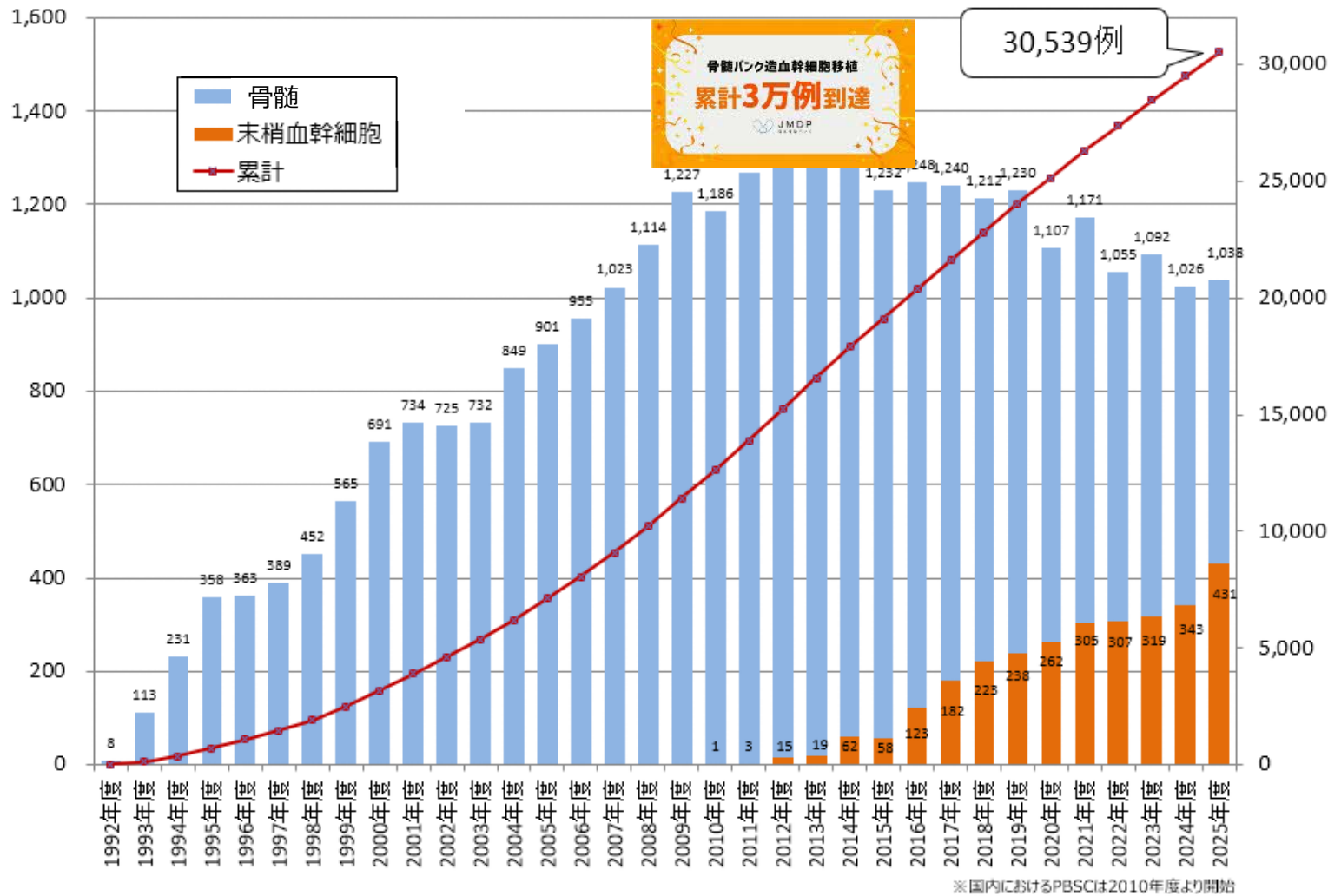
564,155人
2025年度末 登録者数
前年度 562,452人

74.2%
が30代以下
2025年度新規登録ドナー

2カ年の新規登録者数を比較すると、2025年度は30,455人（2024年度：35,828人）。
新規登録者数自体は減少傾向にあるが、若年層に特化した施策により10～30代の割合は上昇している。

採取実績の推移

骨髄・末梢血幹細胞採取実施状況（年度）



●患者登録数

2025年度 国内1,920人／海外489人
計2,409人

2024年度 国内1,869人／海外494人
計2,363人

●採取件数（国内ドナー）

2025年度 1,038例
〔内、末梢血幹細胞採取：431例〕

2024年度 1,026例
〔内、末梢血幹細胞採取：343例〕

●国内患者の移植率

（同期間の新規患者登録数と採取数の比率）

2025年度 54.6%

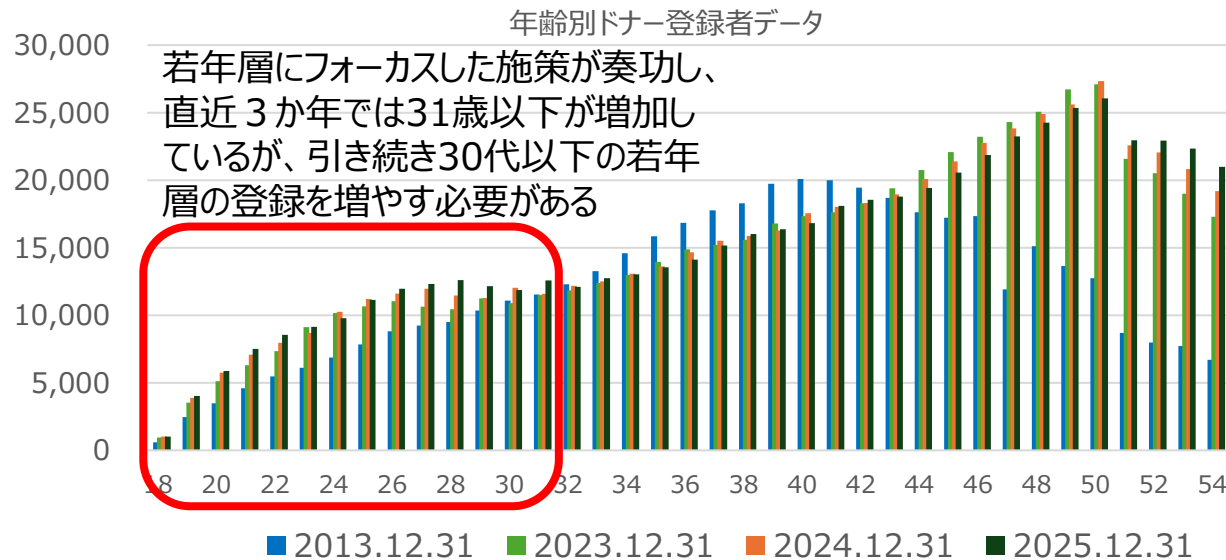
2024年度 54.5%

事業運営における課題

直面している2つの課題

課題1：ドナープールの高齢化

現在のペースでは数年後からプールが急激に縮小するリスク



ドナーの高齢化が進み、今と同じ方法でドナーリクルートを続ければ、数年後からプールが縮小していく。また、適合ドナーの多くが、初期行程で終了し、その大半が「連絡とれず」「都合つかず」といった健康理由以外によるものです。

課題2：初期行程におけるドナー理由の終了（約62%）

健康理由以外が約7割を占める
その大半が「連絡とれず」「都合つかず」

約62%
が初期行程で終了

約7割
が健康理由以外

〔取組みと結果〕

ドナープールの急激な縮小を食い止め、若いドナーを増やすため、若年層にフォーカスしてアプローチを強めることとし、「30代以下の新規ドナー登録者を年間1万人増やす」という目標を達成するための対策として下記①～③を実施した。

- ①SNSの更なる有効活用
- ②教育機関でのドナー登録会の一層の増加
- ③スワブ検査＆オンライン登録の実現に向けた準備とそのトライアル

これらの結果として、31歳以下のドナー登録者数は直近3か年で増加の傾向が見られる。

普及啓発活動①（若年層へのアプローチ）

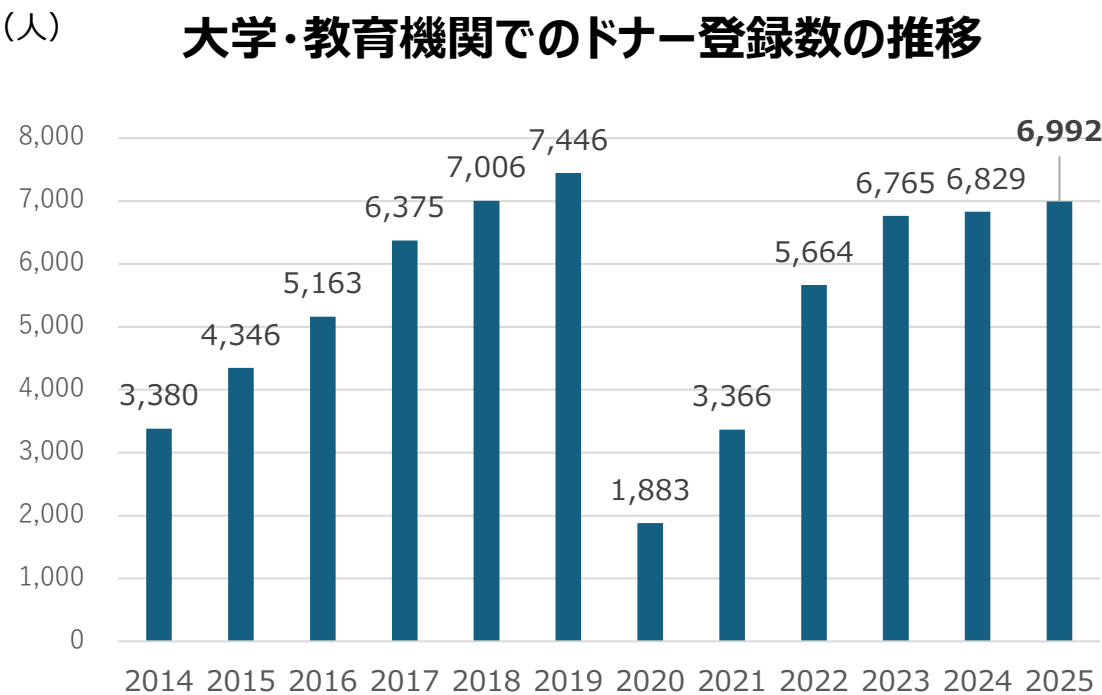
若年ドナーの獲得と教育機関での連携

若年層対策として、

大学・教育機関での登録会を強化

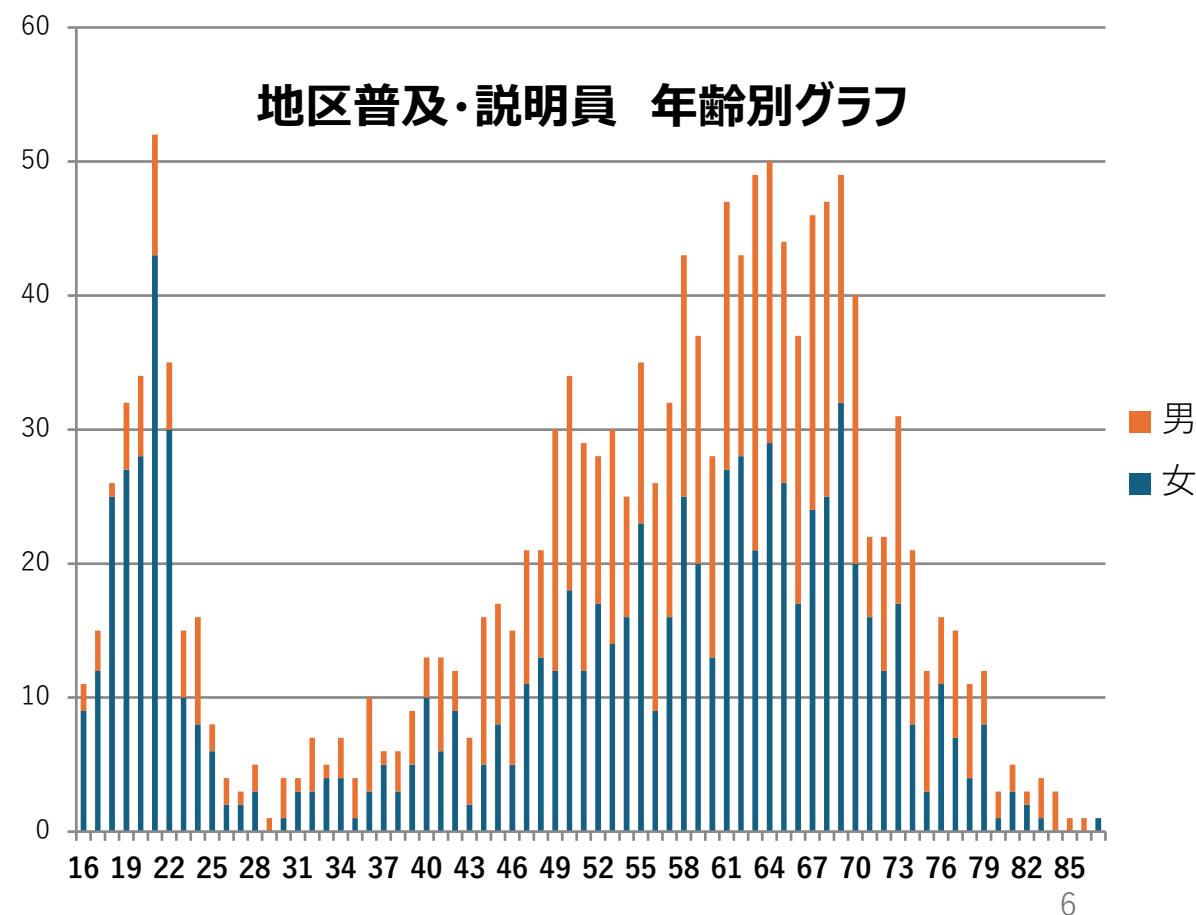
2024年度：若年ドナー獲得に有効な学域開催へ注力

2025年度：1,004件に拡大（前年比10.3%増）



学生説明員の養成

：全国各地の高校・大学で養成を推進



普及啓発活動②（スワブ登録の導入準備）

2024年度：トライアル2を実施

目標200検体 ⇒ 申込355件、返送332名（目標達成）

2025年度：大規模トライアル（トライアル3）を実施

目標3,000検体を大幅に上回る申込・返送を獲得

Web/SNS広告、ラジオ100局以上での著名人告知を展開

今後：トライアル結果を検証の上、本格導入に繋げたい



トライアルちらし（オモテ）

（ウラ）

採血不要！スワブ登録トライアルのお知らせ

#スワブ登録 はじめます

【トライアル期間】
2024年1月20日（火）～
2月10日（火）

採血なしで、口の中をこするだけ！
自宅にいたがらのドナー登録が可能に。

スワブ登録とは？
スワブ登録は、採血不要の簡便な登録方法で、自宅にいたがらでもドナー登録が可能です。
簡便な登録方法で、自宅にいたがらでもドナー登録が可能です。

採血・登録済

スワブ登録のメリット

① 採血不要で簡単
② スワブを口の中に入れて完了
③ 登録完了後、自宅にいたがらでもドナー登録が可能
④ 登録完了後、自宅にいたがらでもドナー登録が可能

スワブ登録の流れ

① スワブ登録の申し込み
② スワブ登録の完了
③ 登録完了後、自宅にいたがらでもドナー登録が可能
④ 登録完了後、自宅にいたがらでもドナー登録が可能

普及啓発活動③（SNS発信・住所不明者対策・表彰）

● SNS発信とイベント開催

- ・SNS発信では公式Xフォロワー数は17,287人（前年15,511人）に増加
- ・「#オレンジ30000チャレンジ」やInstagram・Facebookでの発信を強化
- ・登録者100万人・移植3万例達成を記念した動画を公式SNSで配信
- ・「つなげ！ 骨髄バンクサミット」を開催し、若者・企業・団体と施策を議論

● 住所不明者対策・SMSの取組み

- ・新規の住所不明対象者11,442人にSMSを送信→3,132人反応
- ・未反応の8,482人に再送信→1,050人反応
- ・2回の送信で3,456人（前年3,204人）が検索対象ドナーに復帰
- ・日本赤十字社の献血者コード連携と合わせ2026年度以降も継続予定

● 紺綬褒章(こんじゅほうしょう) 伝達式を実施

- ・2023年11月、内閣府より紺綬褒章の対象となる団体として認定を受領
- ・2025年度、第1号の受章者が決定し、感謝を伝える伝達式挙行
- ・紺綬褒章：私財500万円（個人）・1,000万円（団体）以上の寄付が対象の褒章制度

連絡調整事業①（組織・帳票の抜本改革）

組織・業務改革

組織の拠点統合（2025年度）

全国7カ所の地区事務局を**東西2拠点に統合**
目的：連絡調整方法の**標準化**と**迅速化**



コーディネーターの業務環境の改善

個人情報紛失リスクの低減

・紙FAXの電子化：クラウド閲覧移行により、個人情報を含む紙の書類を約**3割削減**など、セキュリティ面も強化



連絡調整方法の標準化

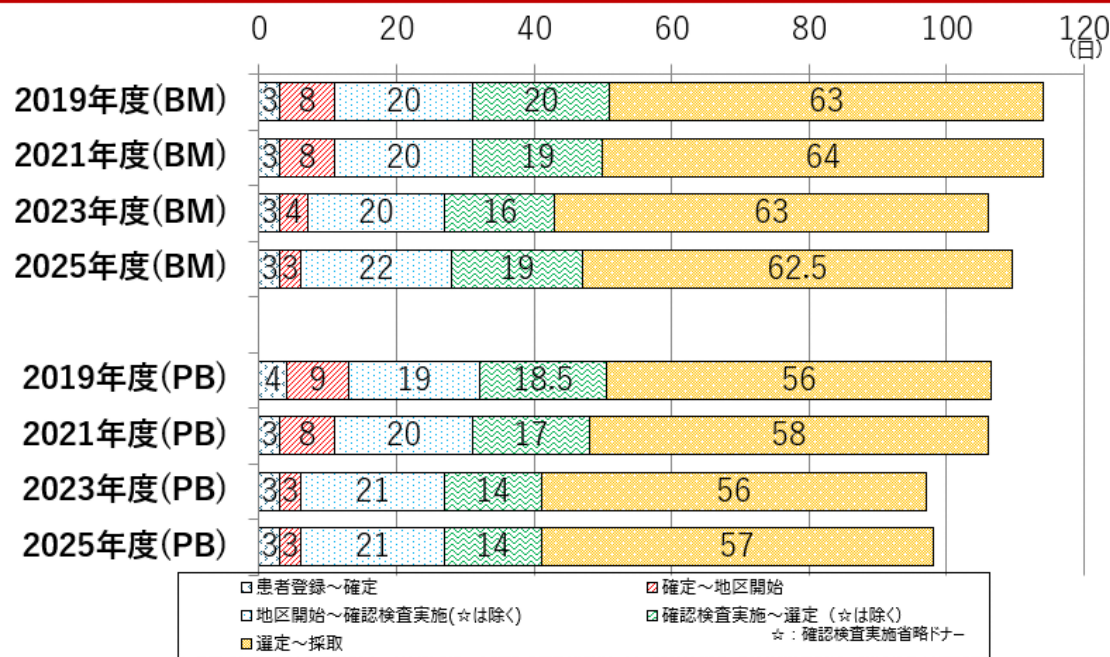
・拠点統合に合わせ、コーディネート帳票の整理・標準化を実施

コーディネート期間 実績の推移

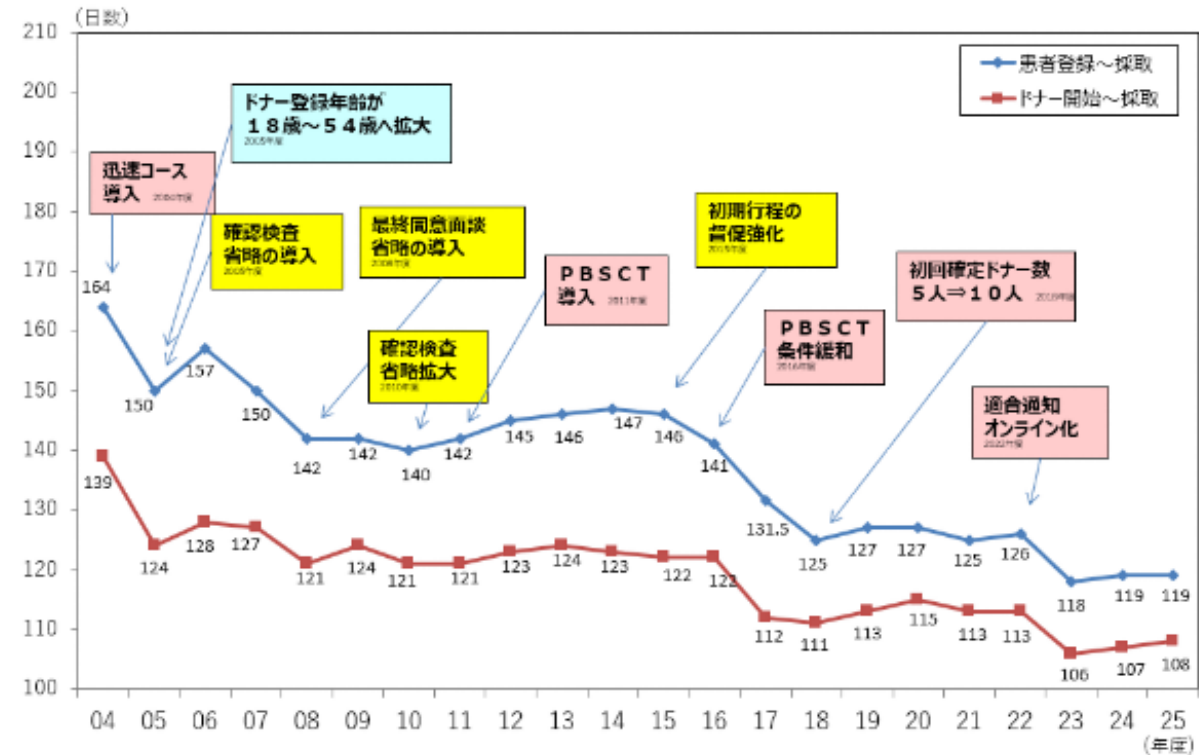
期間短縮

以前に比べると短縮されましたが、より緊急性の高い患者さんにも最適時期での移植が対応できるようさらなる取り組みを続けてまいります。

コーディネート期間（行程別中央値） 採取に至ったドナー



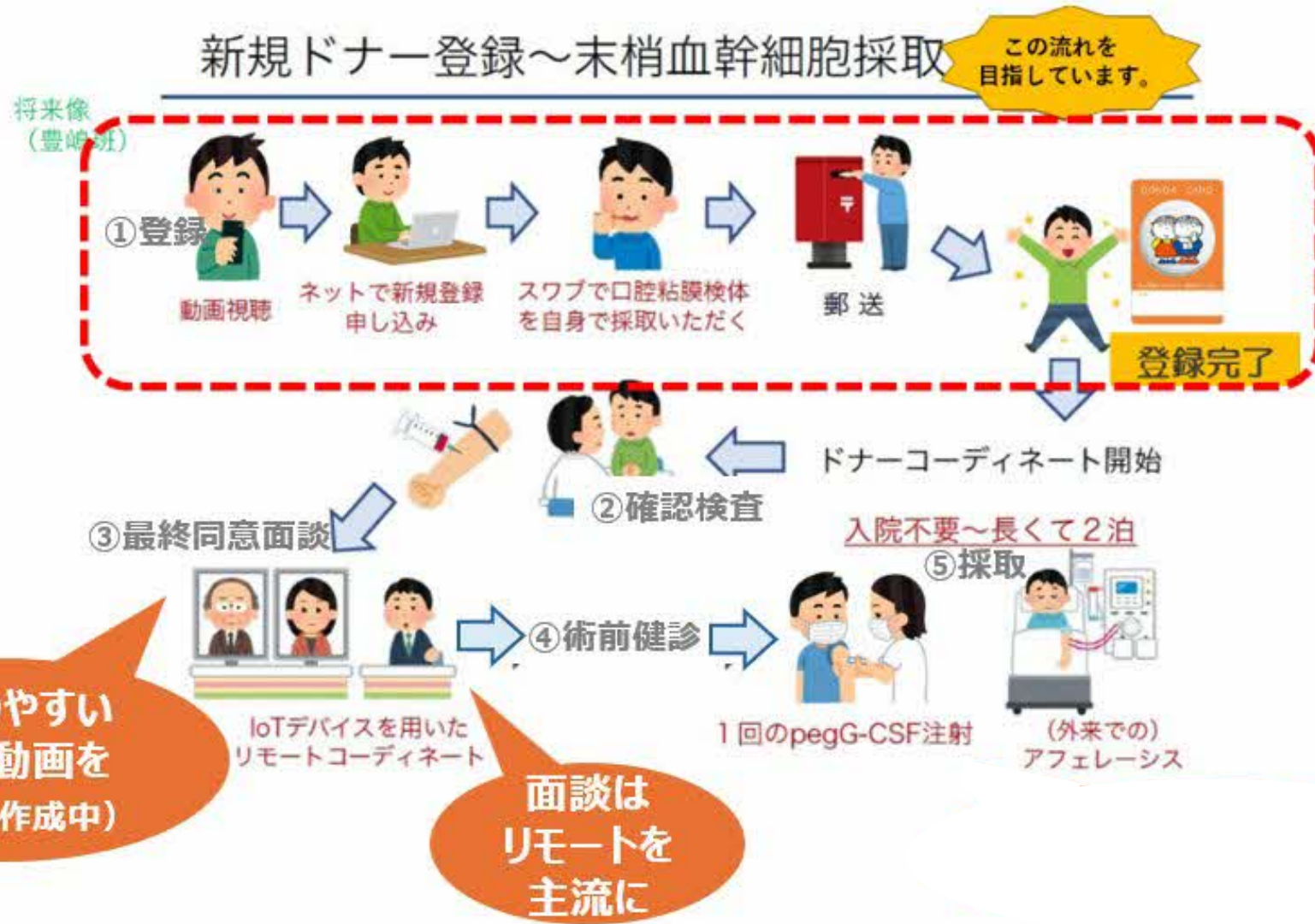
コーディネート期間の中央値の推移 (2004～2025年度)



各行程の効率化に加えて、各地区の拠点病院にも地域の特性に応じて協力していただいています。

連絡調整事業②（ドナーの拘束時間削減とリモート面談の本格化）

ドナーの拘束時間をできる限り減らし、応諾率の向上につなげる様々な施策



コーディネートの効率化に向けた取り組み

1 確認検査面談のリモート化

- ・コーディネーターとドナーが事前にリモート（電話）で面談し、当日はドナーが単独で来院・検査
- ・コーディネーター不在地域を中心に、全体の1割弱で実施
- ・医師向け説明動画をYouTubeで公開し、200名超の医師から賛同を獲得
- ・2026年1月から小冊子・動画による説明を全ドナーに拡大
- ・今後、調整可能な施設を中心にリモート面談の拡大を推進

200名+

医師が説明動画に賛同

2 最終同意面談のリモート化

- ・家族や立合人の電話参加が可能となり、実施面談の約4割でリモートを活用
- ・複数人が別々の場所から同時参加できる「ボイスミーティング」を本格導入
- ・日程調整が容易になり、家族の負担軽減につながった
- ・2026年度より家族署名を廃止（詳細は次ページ）

約4割

の最終同意面談でリモート活用

ペーパーレス化の推進と「家族署名」の廃止

- **電子署名導入：**
 - 確認検査・最終同意書の電子署名化
 - **変更：最終同意面談における「家族の署名」廃止（2026年度～）：**
 - 有識者による審議を経て、最終同意面談での家族の署名廃止を決定
- ※「家族の同意」自体は、これまで通り確実に確認する運用を継続



環境整備（休暇・公欠制度の普及）

ドナーが仕事を休んで提供に協力できるよう、ドナー休暇制度の導入を企業に働きかけています

ドナー休暇制度の拡大 社会全体でドナーを支える環境作り

啓発動画がXで**400万ビューと拡散**

適合ドナーの勤務先へ、当法人から直接導入の検討依頼を実施

学生ドナーへの公欠・教育上の配慮（2025年度～）

パンフレット（オモテ）

（ウラ）

制度導入のメリット

メリット1 提供を後押し
貴社従業員の方が患者さんと適合した場合、本制度があることで上司や同僚など周囲の理解が得られやすくなり、安心して提供することができます。提供ドナーが出る確率は、数千規模の会社で数年に1人程度です。

メリット2 企業のCSR活動の推進
厚生労働省が推奨する特別な休暇制度の一つであり、社内外に社会貢献の姿勢を示すことができます。

ドナーの声

適合して会社に相談した時、ドナー休暇制度を紹介されて申請した。有給休暇が少なかったの、とても助かった。【製造業】

提供の際に自分の有給休暇を10日ほど使った。社内で次の適合ドナーが出た時、大変さを軽減できればと担当部署に働きかけて制度が導入された。【サービス業】

企業の声

労組から社会貢献策の一つとして導入提案があった。ワークライフバランスを考える中で、社員の自己実現や意識向上につながると考えている。【製造業】

東日本大震災を契機にボランティア休暇など様々な社会貢献を検討している時に（ドナーに適合した）社員から相談があった。制度導入は当該職員の提供後だったが、社会的意義に鑑み適宜して適用した。【サービス業】

制度導入にあたり

提供に必要な入院を証明する書類は骨髄バンクから発行します。

「ボランティア休暇」など既存の特別休暇を、代替適用するという導入方法もあります。

例えば、提供に必要な総日数のうち3日をドナー休暇として設定、残りを通常の有給休暇とするなどの「部分導入」からでもご検討ください。

ドナー休暇制度の紹介ページ

詳しくはこちらをご覧ください。
導入企業なども記載しています。



<https://www.jmdp.or.jp/donation/donorsupport/donorleave.html>

お問い合わせ先

ご不明点は、下記までご照会ください。既に導入済、もしくは導入が決まりましたらご一報願います。当法人HPに導入企業として掲載いたします。

公益財団法人日本骨髄バンク
広報渉外部 ドナー休暇制度担当
電話：03-5280-1789（平日9時～17時30分）
メール：kouhou@jmdp.or.jp

ドナー休暇制度導入のお願い

日本骨髄バンク

公益財団法人日本骨髄バンク
<https://www.jmdp.or.jp>

日本骨髄バンクは、白血病などの血液疾患により「骨髄移植」などの治療が必要な患者さんと、それを提供するドナーとを繋ぐための公的事業を行っています。

まずは知ってほしい、ドナー休暇制度のこと。

骨髄などの移植にはドナーの協力が必要です
白血病などの治療には、骨髄移植、末梢血幹細胞移植などが有効とされ、それらを提供してくれるドナーが必要です。

移植を希望する患者さんは毎年2千人近くいますが、実際には希望する患者さんの約半数しか移植を受けられていません。

提供したくても、仕事を休むことができず、提供を断念するドナー候補者が多くいることが、大きな要因になっています。

ドナー休暇制度導入のお願い

ドナーとして提供いただくには、2～4か月の間に10日間程度、平日の日中に検査や入院のために医療施設にお越しいただくことになります。

ドナーが安心して提供に進めるよう、有給休暇を使わず、会社が特別休暇として認めるドナー休暇制度の導入をご検討ください。

現在、制度を導入している企業はまだ900社ほどです。企業の皆さまの協力が、移植を待つ患者さんの救命につながります。

人事・労務ご担当の方へ

制度導入をご案内している動画（6分）をご覧ください。



2023年度、当法人調べ



ドナーになるには職場の理解が必要です
【ドナー候補者との調整が終了した理由の内訳】

理由	割合
健康理由	38%
健康理由以外	62%
ドナー理由	79%
その他	27%
仕事等の都合がず	38%
連絡取れず	35%

患者さんとの適合から提供までの流れ

問診票回答
2～4週間以内

確認検査（所要時間）1～2時間

最終同意 2時間

術前健診 2～3時間

採取準備（通院）1～3日

採取（入院）
骨髄採取の場合 4日
末梢血幹細胞採取の場合 5～6日

※ドナーに選ばれてから提供まで、2～4か月かかります。
※提供後は、術後健診（通院）もあります。

ドナー登録できる方

- 骨髄・末梢血幹細胞の提供の内容を十分に理解している方
- 年齢が18歳以上、54歳以下で健康状態が良好な方
- 体重が男性45kg以上／女性40kg以上の方
- 提供できる年齢は20歳以上、55歳以下です
- 提供にあたっては家族の同意が必要です

ドナー休暇制度・学生ドナーへの配慮の詳細

1 ドナー休暇制度の訴求・導入促進

- ・都道府県担当者会議や説明員研修会で、企業への制度導入を依頼
- ・啓発動画、改定リーフレット、就業規則例を活用して働きかけを実施
- ・SNS（特にX）を活用し、制度の意義など情報発信を実施
- ・2026年7月末時点で全国956社がドナー休暇制度を導入

956社

がドナー休暇制度を導入

2 学生ドナーへの配慮環境づくり

- ・文部科学省が4月に「学生が骨髄バンクドナー候補となった場合の教育上の配慮について」を通知
- ・補講・追試の実施やレポート活用による学修評価など、大学等に適切な配慮を要請
- ・都道府県担当者会議や説明員研修会等で通知内容を周知
- ・ドナー公欠制度の導入校は2026年7月末時点で21校

21校

がドナー公欠制度を導入

ご清聴ありがとうございました
一人でも多くの患者さんの救命のために

問合せ先 <https://www.jmdp.or.jp/>

公益財団法人 日本骨髓バンク